

小山田小

2024年6月28日

4号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<http://www.machida-tky.jp/e-oyamada/>

情報の読み解きや発信のしかたを学ぶ

校長 小澤 新也

携帯電話所有者のスマートフォン比率は、2024年は97%に上るそうです。これは、NTTドコモ モバイル社会研究所が、2024年1月に携帯電話（スマートフォン・フィーチャーフォン）の所有動向について調査した結果です。調査を開始した2010年は4%程度だったものが、2015年に5割、2019年に8割、2021年に9割を超えて、今に至ります。また、同調査では、小学校高学年（4～6年生）のスマートフォン普及率は4割を超えたとの結果が見られました。

今の小学生は、生まれた時からすでに手の届くところにスマートフォンがあったといってもいいかもしれません。スマートフォンは、それまでの家電につきものだった取扱説明書がなくても、直感的な操作で様々なサービスを楽しむことができます。まだ言葉もしっかり話せない幼児が、保護者のスマートフォンを使って写真を撮ったり、画像を選んだり、You-tubeを見たりする姿は、もう驚くに値しない状況になってきています。

町田市はもちろん、今や日本中の小学生全てにタブレット端末を貸与し、授業であるいは家庭学習で大いに活用しています。この夏休みにも家庭に持ち帰り、ドリルソフトを進めたり興味のあることを調べたりと、日々インターネットを通じて様々な情報と接することになります。

小山田小学校ではICTの活用を通して育てたい力を、①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度、として、各教科や総合的な学習の時間に、高学年ではセーフティ教室でも取り上げて指導しています。

先日、5年生が、NHKが企画制作する「つながる NHKメディア・リテラシー教室」にオンラインで参加し、全国4つの小学校と一緒に、メディアリテラシーを学びました。メディアリテラシーとは、

- ① メディアの意味と特性を理解した上で、
- ② 受け手として情報を読み解き、
- ③ 送り手として情報を表現・受信するとともに、
- ④ メディアのあり方を考え、行動していくことができる能力 のことです。

今回のテーマは「画像や映像のねらいを読み解こう」です。2時間にわたった学習は、情報の受け手として、画像や映像にはねらいや思いが込められていることを知ることとともに、情報の送り手として撮影や制作をするときに「誰に・何を・どう伝えたらよいのか」について考える時間となりました。また、画像の加工について、こういった場面で、どういう加工なら許されるのかを考えることで、画像や映像を読み解くリテラシーを高めるものでした。

現役のNHKアナウンサーが進行役となり、考えさせたい課題をA・Bカードを掲げて自分の考えを表明したり、代表児童がカメラの前で意見を発表したりしました。

また、北海道、京都、愛知の小学校の同じ5年生の子どもたちの意見に耳を傾け、異なる意見に触れ、自分の考えを振り返る場面も見られ貴重な機会となりました。

情報通信機器との向き合い方は、今後も様々なアプローチで学習を進めます。ご家庭においても、お子様と丁寧なやりとりを続けていただくようお願い申し上げます。